

中丹

米づくり情報

令和3年7月

防除編

中丹米
振興協議会

2021年テーマ 収量500kg/10a、1等米比率80%を目指して!

カメムシ防除の徹底を＝カメムシ被害は大きな損失です!!

近年カメムシ類が原因の着色粒（斑点米）による等級落ちが増加しています。玄米1000粒のうち2粒以上の着色粒があると2等以下の格付けになります。

カメムシ類はイネ科雑草の穂をエサにします。出穂3週間前と出穂直前の2回、畦畔等ほ場周辺の草刈りを行い、カメムシ類がほ場に近づかないようにするとともに、しっかりと薬剤防除をしましょう。トビイロウンカが全国的に発生しているのでカメムシと同時に防除しましょう。

また、近年、紋枯病の発生が拡大傾向にあり、減収や品質低下が懸念されるようになってきました。紋枯病は病原菌が稲わらに残り、年を越えてその稲わらから伝染します。紋枯病の発生が昨年多かったほ場では箱施用剤だけでなく、田植え以降の防除も行いましょう。



カメムシによる被害粒



トビイロウンカ



トゲシラホシカメムシ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



紋枯病

(京都府病害虫防除所)

草刈りの徹底

ほ場周辺にある雑草の穂は、カメムシ類のエサ場となります。草刈りの徹底は、カメムシ類の密度を低くし、斑点米の被害を軽減させる効果があります。

➡ **1回目：出穂3週間前**
畦畔上のカメムシ類の密度を低下させます。

➡ **2回目：出穂直前**
カメムシ類のエサとなる雑草の出穂を抑えます。

カメムシ類の仕上防除適期



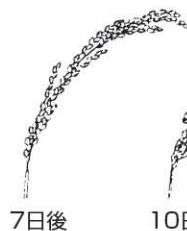
出穂



3日後



5日後



7日後



10日後



スタークル粒剤は
ヒタヒタ水～湛水状態(3cm)。
また、散布後1週間は
落水やかけ流しはしない。